

## 卒業後のキャリア形成に及ぼす要因の検討

Investigation on factors affecting to the career formation after graduation

岩瀬 靖彦<sup>1</sup>, 本田 周二<sup>2</sup>  
Yasuhiko Iwase<sup>1</sup>, Shuji Honda<sup>2</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学家政学部食物学科, <sup>2</sup>大妻女子大学人間関係学部人間関係学科

キーワード: キャリア形成, 学生生活, 資格

Key words : Career formation, Campus life, Qualification

### 1. 研究目的

現在の日本における大学では、進学率の向上などにより多様な学生が入学するようになっており（いわゆる、大学全入時代）、その結果、学生の質の変化（将来の職業や学修への自覚の欠如）が指摘されている。また、産業構造や就業構造の変化といった社会全体を通じた構造的な問題も生じている中で、近年、大学に対する社会的な要請が大きく変わりつつある。

その一つの大きな柱が大学の教育改革（教育の質保証）である。大学教育・授業を取り巻く様々な環境整備（学生による授業評価、ファカルティ・ディベロップメント、GPAによる厳格な成績評価など）を行い、学生にしっかり勉強させる、学生がわかるような授業をすることを大学はこれまで以上に求められている（溝上, 2006）。このように、大学の教育改革には様々なものがあるが、その中でも現在、特に重要視されているのは、卒業時の質保証であろう。例えば、文部科学省の平成 28 年度大学教育再生戦略推進費大学教育再生加速プログラム（AP）において、「卒業時における質保証の取組の強化」の枠組みが創設され、いくつもの大学が卒業時の質保証に向けた取り組みに力を入れ始めている。卒業後に活躍できる力を在学中にどの程度身に付けることが出来たかについては、大学の教育の質に直結する問題であり、大学の生き残りという視点からも重要であると考えられる。

以上のような教育改革を学生の視点から考えると、在学中の学びにより自分自身が望むキャリアを形成することが出来るのかが重要となる。

学生は様々な動機で大学に入学し、学びを深めているが、多くの学生は、卒業後に自身の求める進路に進むことを希望していると考えられる。そ

のための教育を大学は求められていると言える。一方、進路意識や目的意識が曖昧なまま入学する学生も一定数存在しており（文科省, 2010）、入学当初希望していた卒業後の進路が在学中に変化することも十分に考えられる。このような学生がどのようなきっかけで進路変更を希望し、自身の望むキャリアを形成していくのかについて理解することは、卒業時の質保証を考える上で重要であろう。

しかしながら、在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連についての明らかにした研究はあまり見られない。例えば、村上（2013）は、学部の教育改善のために、卒業予定者を対象に大学での授業科目群の有用性評価と大学で取得した能力の自己評価について検討しているが、学生のキャリア形成という視点で検討は行われていない。

そこで、本研究では、在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について、卒業前の大学 4 年生を対象とした調査により明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究実施内容

現在、まだ調査を実施している途中であるため、現段階での実施内容について報告する。

#### 調査対象者

都内にある女子大学の 4 年生を対象に調査を行った。調査対象者は 85 名であり、回答に不備の見られた 1 名を除外した 84 名が分析対象であった。平均年齢は 21.8 歳（SD=0.47）であった。

#### 調査時期

2019 年 1 月～3 月に、対面および web での回答

を求めた。なお、回答を求める際には、本調査が任意であること等、倫理について説明をし、同意を得たもののみ回答してもらった。

## 調査内容

問1：学科・専攻についてたずねた。

問2：年齢についてたずねた。

問3：所属する学科・専攻と職業との関連について、「1. 関連していない」～「6. わからない」の6件法でたずねた。

問4：大学受験時の、大学に対する志望度について、「1. 希望していなかった」～「6. 覚えていない」の6件法でたずねた。

問5：入学時に重視した大学の受験理由について、「1. 教養や視野の拡大」「2. 就職に有利」「3. 興味のある専門知識、技術の習得」「4. 結婚に有利」「5. 免許・資格取得」「6. 将来の安定した生活」「7. 家族がすすめる」「8. 先生がすすめる」「9. 周りの人が行くから」「10. 特に理由はない」「11. その他」の中から1つ選択を求めた。

問6：現在、理想としている人生のタイプについて、「タイプ1（結婚・仕事しない）」「タイプ2（結婚しない、仕事する）」「タイプ3（結婚・仕事する、子どもなし）」「タイプ4（結婚・仕事する、子どもあり、退職せず）」「タイプ5（結婚・仕事する、子どもあり、退職）」「タイプ6（結婚・仕事する、子どもあり、子育て後復帰）」の中から1つ選択を求めた。

問7-1：卒業後の進路について、「1. 就職(企業)」「2. 就職(公務員)」「3. 就職(教員)」「4. 進学(大学院)」「5. 専門学校、予備校」「6. 研究生、聴講生(科目等履修生)」「7. フリーター、アルバイト」「8. 留学」「9. 公務員試験準備(未就職)」「10. 教員採用試験準備(未就職)」「11. 未定」「12. その他」の中から1つ選択を求めた。

問7-2：卒業後の進路について、その結果をどのように捉えているのかに関する3項目について、「1. あてはまらない」から「4. あてはまる」の4件法でたずねた。

問7-3：卒業後の進路が在学中に取得した資格や免許を使ったものであるかについて「はい」「いいえ」の2件法でたずねた。

問7-4：問7-3で「はい」と回答した方に、具体的な資格や免許について記入を求めた。

問8-1：大学生活を振り返り、8つの大学生活(「勉強や研究を第一においた生活」「サークル・同好会

の活動を第一においた生活」「自分の趣味を第一においた生活」「良き友を得たり、豊かな人間関係を結ぶことを第一においた生活」「将来就きたい仕事や就職のために資格取得や大学外の学校に通うことを第一においた生活」「アルバイトをしたり、お金をためることを第一においた生活」「特別に重点をおかず、ほどほどに組み合わせた生活」「なんとなく過ぎていく生活)」についてどの程度重点を置いてきたかについて、「1. あてはまらない」から「4. あてはまる」の4件法でたずねた。

問8-2：大学生生活において「授業」「授業以外での学習(予・復習など)」「資格(国試など)の勉強対策」「部活・サークル活動」「アルバイト」「交友関係」の6つについて、それぞれどの程度意味があったと感じているか、「1. 意味はなかった」から「5. やっていない」の5件法でたずねた。

問8-3：大学生生活における正課外の活動(「ボランティア活動(学内)」「ボランティア活動(学外)」「地域貢献活動」「国際交流活動」「サークル活動」「アルバイト」「その他)」のうち、積極的に取り組んだ活動についてあてはまるもの全てを選択させた。

問8-4：大学での教育(教育内容や授業や指導方法など)についての満足度を「1. 満足していない」から「4. 満足している」の4件法でたずねた。

問8-5：大学での教育について良かったと思う点を1つ自由記述で回答を求めた。

問8-6：大学生生活についての満足度を「1. 満足していない」から「4. 満足している」の4件法でたずねた。

問9-1：在学中に取得可能(受験資格含む)となった資格および途中で目指すことを辞めた資格について18カテゴリーの中からあてはまるもの全てを選択させた。

問9-2：入学した時点で希望していた進路とは別の進路を希望するようになったのかについて「はい」「いいえ」の2件法でたずねた。

問9-3：別の進路を希望するようになった時期について「1年生」「2年生」「3年生」「4年生」の中から1つ選択させた。

問9-4：別の進路を希望するようになった理由について自由記述で回答を求めた。

問10：人生キャリア・レディネス尺度(坂柳, 1996)のうち、キャリア関心性(自己のキャリアに対して、積極的な関心をもっているか)とキャリア自律性(自己のキャリアへの取り組み姿勢が、

自律的であるか) の計 18 項目について、「1. 全くあてはまらない」から「5. よくあてはまる」の 5 件法でたずねた。

### 分析結果

(1) 所属する学科・専攻と職業との関連について 関連していない (12 : 14.5%), どちらかと言えば関連していない (22 : 26.5%), どちらとも言えない (12 : 14.5%), どちらかと言えば関連している (24 : 28.9%), 関連している (11 : 13.3%), わからない (2 : 2.4%) であった。

(2) 大学に対する志望度について 希望していなかった (9 : 10.7%), あまり希望していなかった (10 : 11.9%), どちらとも言えない (5 : 6.0%), 少し希望していた (22 : 26.2%), 希望していた (38 : 45.2%) であった。

(3) 入学時に重視した大学の受験理由について 教養や視野の拡大 (3 : 3.8%), 就職に有利 (21 : 26.6%), 興味のある専門知識, 技術の習得 (26 : 32.9%), 免許・資格取得 (4 : 5.1%), 家族がすすめる (3 : 3.8%), 先生がすすめる (9 : 11.4%), 特に理由はない (2 : 2.5%), その他 (11 : 13.9%) であった。

(4) 現在, 理想としている人生のタイプについて タイプ 1 (1 : 1.2%), タイプ 2 (9 : 11.0%), タイプ 3 (5 : 6.1%), タイプ 4 (24 : 29.3%), タイプ 5 (19 : 23.2%), タイプ 6 (24 : 29.3%) であった。

(5) 卒業後の進路について 就職 (企業) (68 : 81.9%), 就職 (公務員) (1 : 1.2%), 就職 (教員) (2 : 2.4%), 進学 (大学院) (3 : 3.6%), フリーター・アルバイト (2 : 2.4%), 留学 (1 : 1.2%), 公務員試験準備 (未就職) (1 : 1.2%), 未定 (4 : 4.8%), その他 (1 : 1.2%) であった。

(6) 卒業後の進路が在学中に取得した資格や免許を使ったものであるかについて

はい (4 : 4.9%), いいえ (78 : 95.1%) であった。

(7) 重点を置いた大学生活について 勉強や研究を第一においた生活 ( $M=2.30$ ,  $SD=0.97$ ), サークル・同好会の活動を第一においた生活 ( $M=1.94$ ,  $SD=1.12$ ), 自分の趣味を第一においた生活 ( $M=2.96$ ,  $SD=0.86$ ), 良き友を得たり, 豊かな人間関係を結ぶことを第一においた生活 ( $M=3.04$ ,  $SD=0.93$ ), 将来就きたい仕事や就職のために資格取得や大学外の学校に通うことを第一においた生活 ( $M=1.93$ ,  $SD=0.89$ ), アルバイトを

したり, お金をためることを第一においた生活 ( $M=2.79$ ,  $SD=1.01$ ), 特別に重点をおかず, ほどほどに組み合わせた生活 ( $M=2.48$ ,  $SD=0.99$ ), なんとなく過ぎていく生活 ( $M=2.23$ ,  $SD=0.88$ ) であった。

(8) 大学生活で意味があると感じた程度について 大学生活に関する 6 項目について意味があると感じた程度をまとめたものを Table 1 に示す。

Table 1 大学生活で意味があると感じた程度 (%)

	意味はなかった	あまり意味はなかった	ある程度意味があった	意味があった	やっていない
授業	2.4	3.6	51.2	42.9	0.0
授業以外の学習 (予・復習など)	13.1	21.4	40.5	19.0	6.0
資格 (国試など) の勉強対策	12.0	21.7	24.1	19.3	22.3
部活・サークル活動	16.9	3.6	14.5	32.5	32.5
アルバイト	2.4	3.6	15.5	71.4	7.1
交友関係	1.2	6.0	16.7	71.4	4.8

(9) 大学生活で取り組んだ正課外活動について ボランティア活動 (学内) (3 : 3.6%), ボランティア活動 (学外) (7 : 8.3%), 地域貢献活動 (2 : 2.4%), 国際交流活動 (1 : 1.2%), サークル活動 (29 : 34.5%), アルバイト (64 : 76.2%), その他 (5 : 6.0%) であった。

(10) 在学中に取得可能 (受験資格含む) となった資格および途中で目指すことを辞めた資格について

それぞれの結果を Table 2 に示す。

Table 2 在学中の取得資格, 辞めた資格 (度数)

	取得可能資格	辞めた資格
教員免許 (中・高)	4	1
教員免許 (栄養教諭一種・二種)	4	1
図書館司書	11	6
博物館学芸員	6	1
栄養士	13	1
管理栄養士	0	0
保育士	3	1
食品衛生管理者	0	0
食品衛生監視員	0	0
児童指導員	3	0
社会調査士	40	1
認定心理士	14	4
社会福祉主事	2	0
社会福祉士	0	1
介護福祉士	0	0
精神保健福祉士	0	2
サプリメントアドバイザー	2	1
その他	5	3

(11) 入学した時点で希望していた進路とは別の進路を希望するようになったのかについて はい (38 : 46.3%), いいえ (44 : 53.7%) であった。

(12) 別の進路を希望するようになった時期について

1年生(4:10.5%), 2年生(11:28.9%), 3年生(15:39.5%), 4年生(8:21.1%)であった。

(13) 人生キャリア・レディネス尺度について

人生キャリア・レディネス尺度のうち、キャリア関心性とキャリア自律性について平均値と標準偏差をTable 3に示す。

Table 3 人生キャリア・レディネス尺度(キャリア関心性・自律性)の平均値、標準偏差

	N	M	SD
これからの人生や生き方について、とても関心を持っている	78	4.01	0.97
希望する人生を送るにはどうすればよいか、調べたことがある	78	3.46	1.16
どのような生き方が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある	78	4.18	0.85
これからの人生は、自分の力で切り開いていくことができる	78	3.73	0.89
どんな生き方をしていけばよいかは、最終的には自分自身の責任で決める	78	4.44	0.57
希望する人生を送れるように、日頃から自分を向上させようと思っ掛けている	78	3.45	0.80
人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている	78	2.62	1.11
どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読んでみたことがある	78	2.77	1.21
自分は何のために生きていくのか、真剣に考えたことがない	78	2.05	0.98
人生をどう過ごすかは、他の人が考え始めるころに、自分も考えればよい	78	2.04	0.99
これからの人生は、自分で責任を自覚して送ろうと思う	78	4.10	0.69
今後の人生で困難なことに突き当たっても、自分なりに克服していこうと思う	77	4.18	0.66
人生設計や生き方にあまり関心がない	77	1.96	0.95
今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるようにしている	77	3.90	0.82
将来の生き方は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている	77	4.05	0.79
これからの人生をどう過ごすかは、周囲の雰囲気に合わせて決めようと思う	77	2.48	1.10
まだしばらくの間は、責任のある生活はしたくない	77	3.10	1.25
人生を充実させるためには、面倒な事でも積極的にチャレンジする	77	3.45	0.95

### 3. まとめと今後の課題

本研究では、在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について、卒業前の大学4年生を対象とした調査により明らかにすることを目的としていた。具体的には、入学時の志望動機や卒業後の進路、在学中の学び、資格取得等について回答を求めた。その結果、(1) 入学時に重視した大学の受験理由について、「興味のある専門知識、技術の習得」と「就職に有利」が上位であったこと、

(2) 現在、理想としている人生のタイプについて、タイプ4(結婚・仕事する、子どもあり、退職せず)とタイプ6(結婚・仕事する、子どもあり、子育て後復帰)が同率で最も選ばれていたこと、

(3) 卒業後の進路が在学中に取得した資格や免許を使ったものであるかについて、ほとんどが「いいえ」であったこと、(4) 重点を置いた大学生活について、「良き友を得たり、豊かな人間関係を結ぶことを第一においた生活」「自分の趣味を第一においた生活」「アルバイトをしたり、お金をためることを第一においた生活」が上位3つであったこと、(5) 大学生活で取り組んだ正課外活動について、「アルバイト」と「サークル活動」以外はあまり選択されなかったこと、(6) 在学中に取得可能(受験資格含む)となった資格について、「社会調査士」「認定心理士」「栄養士」「図書館司書」「博物館学芸員」が上位5つであったこと、そして、途中で諦めた資格については「図書館司書」と「認定心理士」が多く挙げられていたこと、(7) 入学した時点で希望していた進路とは別の進路を希望するようになったのかについて、約半数が「はい」と回答していたこと、そして、別の進路を希望するようになった時期は3年生と2年生で多いことが明らかとなった。

今後の課題としては、現在継続中であるデータを加えた上で再度分析を行うこと、学科や専攻によって在学中の学びと卒業後のキャリア形成の関連が異なることが考えられるため、詳細な分析を行うことが挙げられる。そして、次年度以降、卒業生を対象に、在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について研究を行うことも必要であろう。

### 4. この助成による発表論文等

2019年度に学会発表および論文投稿を予定している。